

図 説

情報資源組織演習

カードイメージからコンピュータ目録まで

第3版



石井 保廣
石川 賀一
小田 孝子
磯野 肇
矢崎 美香

図説 情報資源組織演習

カードイメージからコンピュータ目録まで

第3版

石井保廣
石川賀一
小田孝子
磯野 肇
矢崎美香

3 版序

第2版刊行後、5年が経過し情報資源の組織法も日本十進分類法新訂10版が19年ぶりに改訂され、AACR2の後継としてRDA(Resource Description and Access)が制定されるなど図書館界にも新たな“波”が寄せてきた。このような状況下で、本書も演習問題の追加・訂正やコンピュータ目録を取り扱うなど大幅な改定を行い、第3版として刊行することにした。改訂にあたっては、第2版を基に以下のように5人がそれぞれの分野を担当する共著とした。

記述目録	小田孝子
主題目録（分類）	石川賀一
（件名）	石井保廣
コンピュータ目録	矢崎美香、磯野 肇
全般編集及び監修	石井保廣

第3版の主な改訂内容

日本十進分類法は改訂後日が浅く、第9版による演習も多いと思われるため、従前どおり第9版による演習とし、第10版は紹介のみにとどめた。また、RDAについては、洋書において適用される動きがあるが、司書科目での演習は和書が中心であるため、この版では見送った。一方、文部科学省が掲げる「司書資格取得のために大学において履修すべき図書館に関する科目一覧」で、当科目について、「ネットワーク情報資源のメタデータ作成の実際」が挙げられていることもあり、機関リポジトリを採り上げていたが、図書館における普及度と成果物が情報検索に有機的につながる点を考慮し、コンピュータ目録の演習に変更した。それぞれの章の変更等は以下のとおりである。

①記述目録

本文の「例題と演習」で若干の修正と巻末の「問題集」を増やし、本書のみで演習ができることを目指した。

②主題目録

分類の部は大幅な入れ替えを行い、新たな観点から演習を進めることにした。件名標目については、ほぼ第2版を踏襲した。

③コンピュータ目録

コンピュータ目録を個々の大学で演習環境を整備するには困難である。幸いに国立情報学研究所の「WebUIP」は書誌ユーティリティ参加機関の教育用に準備されており、申請により許可が得られると授業における演習も可能となる。さらに、参照MARCや典拠ファイルが整備されており、司書課程の教育用として同一UIP環境で演習が可能なWebUIPを採用入れた。

本書は、学生が購読時の負担を軽くするため、流通機構を通さず印刷会社から直接の頒布としているにも拘らず一部の大学から引き合いがあり、感謝申し上げる次第である。

石井 記

2 版序

初版を刊行後、1 年が経過した。本書で利用している千葉大学の UsrCom に「メタデータ登録練習用」のサイトが新設されたことによる修正及び主題目録編・記述目録編の順序を入れ替え、新たに第 2 版として刊行した。特に東日本の大震災直後にもかかわらず UsrCom の利用について、千葉大学には多大なご配慮をいただいた。深く感謝したい。

序

平成 21 年 4 月に公布された「図書館法施行規則の一部を改正する省令」により、「資料組織演習」は「情報資源組織演習」に集約され、書誌データの作成に加えメタデータの作成についての演習も行うこととなった。本書もこれに応じ、旧タイトル「図説資料組織の実際」を改題し、メタデータの章を追加するとともに全体の内容も見直し、新たに「図説情報資源組織演習」として再出発することにした。

本書の方針

1. 標準的ツールの使用と端末機を用いた演習

この「図説情報資源組織演習」では、記述目録、主題目録において、「三種の神器」ともいえる、①日本目録規則 1987 年版²⁾(以下、NCR87 といい、必要に応じて改訂 2 版は NCR87R2、改訂 3 版は NCR87R3 という。) ②日本十進分類法新訂 9 版³⁾(以下、NDC9 という。) ③基本件名標目表第 4 版¹⁾(以下、BSH4 という。)を標準のツールとして、演習時には、実務と同様に常に参照することを想定している。さらに、書誌ユーティリティ型の教育用コンピュータ目録環境 (WebUIP) を利用したオンライン型の演習までを本書の範疇とした。

2. 本書の構成

①記述目録、②分類、③件名標目、④標目・請求記号、⑤コンピュータ目録の順とした。

1) 記述目録

資料の組織化の演習を進めていくうえで、まずその資料を同定し、必要な記述目録で書誌的な事項の把握と区切り記号を含む記録方法を学ぶ。

2) 主題目録

次に、内容を表現する主題目録には、分類と件名があるが、わが国では、NDC を適用する図書館が 100%に近く、NDC による分類の学習が必須である。

件名については、種々の理由から積極的な付与作業を進める状況には至っておらず MARC 等の件名を受動的に利用するにとどまっている場合も見受けられる。当然のことながら、JAPAN MARC では NDLSH (国立国会図書館件名標目表) が使われるため、BSH との混在は統制語のコントロール作業での負担が大きい。このため、カリキュラムの進捗にあわせ必須の分類演習とオプションとしての件名演習に柔軟に対応できるよう分類、件名の順に構成した。

3) 標目・請求記号

NCR では十分にはふれられていない、目録作成要素 (標目の分かち書き、請求記号、逐次刊行物の所蔵事項など) にもふれ、全体的な記入を完成させる。

4) コンピュータ目録

さらに、現行の図書館で普及の進んだコンピュータ目録を、基本であるカードイメージを学ぶことによつて、その応用として演習できるよう記述目録、主題目録の後に設けた。

5) 問題集

巻末には問題集を配し、それぞれの章で学んだことを共通に使えるように配慮した。

3. 演習の学習範囲

原則として、演習課題は和図書・雑誌を中心に行っている。主題目録では、NDC の補助表、BSH の細目を使って演習する。記述目録では、基本となる図書資料を中心に解説しているが、多様なメディアの流通をふまえて、図書以外の資料への応用が効くよう「資料の種類に関係する各書誌の事項と記録内容一覧」を付した。

4. パターン表現

記述の表現には、国立情報学研究所の「目録システムコーディングマニュアル」で使用される、「入力データ記述文法」を流用してさまざまなパターンを表現し、論理的に理解がすすむ表現法として採り入れた。(凡例参照)

5. カード目録とコンピュータ目録

記述目録の部では、NCR87 による汎用性の高い目録記述の演習であり、特定のシステムを意識したものではないことに留意して、演習の実施方法を比較検討する。

カード目録の特性	コンピュータ目録の特性
<ul style="list-style-type: none">・NCR 自体が改行式・追い込み式、目録構成の概念、区切り記号などカード目録を前提に作成されている。・一つ一つ目で確認しながら作業ができる。・区切り記号を掴み易い。・演習時に訂正箇所を記録しておく。	<ul style="list-style-type: none">・コンピュータ目録の普及度は高い。・図書館システムに多くの種類があり、入力方式や表示形式に標準的な方式が確立されているわけではない。・機器の操作に気をとられ集中度が低下しないような工夫が必要。

本書では、75×125mm の目録用標準カードに書誌情報、主題情報、管理情報などを展開する「カード目録」をイメージした演習を核に、演習の展開形として、国立情報学研究所が提供する教育用の NACSIS-CAT (WebUIP) を演習する。

6. 記述目録の実際

原則として、次のような演習方針をとる。

- ①「単行書誌単位」を中心に
記述総則でも述べられているように、単行書レベルを基本とする。
- ②「第2水準」
演習としてなじみ易いように標準的書誌的な事項を記述する。
- ③「改行式」を標準とする
各書誌の事項ごとに明示的に改行することで、一覧したときに見易く理解しやすい。
- ④本則を適用する
特に、言及する場合を除き本則を適用するが、図書以外の資料やほかの書誌階層、改行式と追い込み式の比較、任意規定・別法なども広く演習する。

7. コンピュータ目録について

NACSIS-CAT は、全国の大学図書館等の目録所在情報がわかる総合目録データベースを構築するシステムで、WebUIP は、このシステムをクライアントの Web ブラウザから操作できるアプリケーションで、教育用のシステムが提供されており、利用には国立情報学研究所の許諾が必要である。本書では、「指導用ヒント集」の中で詳述している。

8. 関連情報

- ①演習を進めるうえで、直接的に必要なものではないが、幅の広い学習とするため、それぞれの箇所に関連する情報を *One Point* として囲み記事のかたちで紹介している。
- ②指導教員用として演習問題を解説した、「指導用ヒント集」を別途作成している。

目 次

序	1
本書の方針	3
凡例	8
I. 情報資源組織化の基礎	10
1. 情報資源の組織化とはなにか？その効果は？	10
2. 情報資源組織化の具体的な流れ	11
3. 記述目録と主題目録	12
4. 多様なアクセスを保障する目録	12
5. カード目録とコンピュータ目録	13
記述目録編	
II. 日本目録規則	14
1. 基本記入方式と記述ユニット（付：単一記入制）	14
2. 書誌階層	16
3. 記述の精粗と追い込み式・改行式	19
4. 日本目録規則の構成	21
III. 記述の実際	24
1. 書誌的事項と情報源	24
2. 記録すべき8つの書誌的事項とその記録順序	26
3. 各書誌的事項の説明と区切り記号	27
ア) タイトルと責任表示に関する事項	28
イ) 版に関する事項	34
ウ) 資料（または刊行方式）の特性に関する事項	36
エ) 出版・頒布等に関する事項	36
オ) 形態に関する事項	38
カ) シリーズに関する事項	41
キ) 注記に関する事項	43
ク) 標準番号、入手条件に関する事項	45
4. 物理単位	46
5. 資料の特性による記載事項	47
資料の種類に関する各書誌的事項の記録内容一覧	48
6. 典拠ファイル	51
7. 標目	52
8. 分かち書き	53

主題目録編

IV. 主題分析	5 6
1. 引用順序	5 6
2. 日本十進分類法及び基本件名標目表における主題に関わる考察	5 7
V. 日本十進分類法	5 8
1. 日本十進分類法の構成	5 8
2. 分類規程（一般分類規程）	6 2
3. 各類概説（特殊分類規程）	6 4
4. 一般補助表の使い方	6 5
5. 固有補助表の使い方	7 9
6. 日本十進分類法新訂 10 版について	8 0
VI. 基本件名標目表	8 1
1. 「ことば」からのアプローチ「件名標目」	8 1
2. 自然語と統制語	8 1
3. 基本件名標目表の概要	8 2
4. 標目の表現形式	8 6
5. 細目	8 7
6. 件名作業	9 0
附 1. 請求記号	9 4
附 2. 排列	9 6

コンピュータ目録編

VII. コンピュータ目録	9 9
1. WebUIP	9 9
2. 登録の流れ	1 0 3
3. 検索	1 0 5
4. 所蔵のみの登録	1 0 6
5. 流用入力	1 0 9
6. 新規入力	1 1 2
問題集	1 1 9
1. 記述目録に関する問題	1 2 0
2. 分類／件名に関する問題	1 3 6
3. 請求記号に関する問題	1 3 9
4. 排列の問題	1 4 0
5. 所蔵事項の問題	1 4 0
6. 総合問題	1 4 1
参考文献	1 4 3
索引	1 4 6

One Point

典拠ファイルの維持は？	1 2
この演習でよく使う NCR87 用語解説	2 3
タイトルの無い資料は？	2 8
〇〇〇〇編集？ 〇〇〇〇編？ 役割表示の略し方は？	3 0
書籍 JAN コードと ISSN	4 6
日本十進分類法は 16 分野の十進数	6 0
形式区分の複合使用	7 0
地理区分の記号	
～「東から西へ、北から南へ」で見込みをつけて調べる～	7 4
言語区分の複合使用はできるのか？	
～2 つの“辞典”と複数主題～	7 8
参照ファイルはいつ検索される？	1 1 0

凡 例

1. 記号等

案内・指示等に記号を用いた

- 区切り記号中で使用するときには、空白（スペース）

例：時代を映したキャッチフレーズ事典□/□深川英雄□[ほか]□編著

- △ NCR87 の章、条項で使用するときには、すべての条項番号を包括する記号として

例：△.5.1.1.A

この場合は、△=各章とし、1.5.1.1A、4.5.1.1.A、5.5.1.1A・・・のごとく読み替える。(2.5.1.1A、3.5.1.1A は該当条項が無い)

- 標準ツールの適用条項などの参照に導く指示子

例：→ 1.4.0.2 NCR87 の条項 1.4.0.2 を参照する

(適用条項を確認することは資料組織を学ぶうえで、一貫した目録作業を進める大切な手続きである。標準ツールの随時確認を習慣づける)

- ◀ 改行式の事例等で明示的に表す改行記号に用いる

		スピノザ□/□スピノザ□[著]□;□高桑純夫□[ほか]□訳◀ 東京□;□河出書房新社, □1966◀ 456p□;□20cm. □◀ (世界の大思想□;□9) ◀ 内容:□倫理学 (エティカ) □/□高桑純夫訳, □知性改善論□/□森啓訳, □政治論□/□井上庄七訳, □解説□/□桂寿一□[著] ◀ スピノザ年表:p453-456◀
		○

注目、注意してほしい箇所にアンダーラインを付した

例：それぞれの水準や別法で異なる

- ⑨ 注釈の前

例：⑨版解説では、建築図集（521・523）を除き6種としている

「情報資源組織論」⁵⁾ の⁵⁾ は参考文献の通し番号を示す

2. 例題と演習

巻末の演習問題とは別に、それぞれの項で、必要と思われる箇所で、マークのもとに、例題と演習を行うようにしている。

例題と演習

3. *One Point*

トピックや関連情報などについて *One Point* を上部につけた四角のコラムで説明。

4. 入力データ記述文法

情報資源組織演習にあたって、大切なことは主題や書誌的事項など資料そのものを分析する能力と記録手順や ISBD²⁾⁹⁾ 区切り記号の応用など技術的な面の向上にあると考えられる。

この演習では、技術的な面を理解する手助けとして、国立情報学研究所の総合目録データベースの「目録システムコーディングマニュアル」で使用される「入力データ記述文法」を一部拡張して用い書誌的事項の記録手順を明示的に把握できるようにする。

文法は繰り返し() と分岐 [] のみの単純な記述で記録手順を表現することで、論理的に理解することができる。

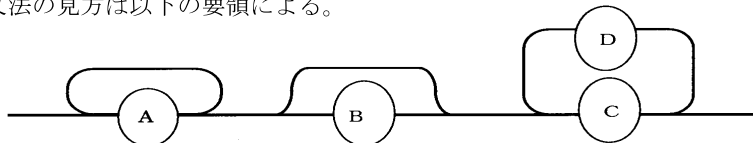
入力データ記述文法

この入力データ記述文法は、原則として、ISBD の区切り記号法に準拠している。

「繰り返し」は、当該項目を繰り返し設定することが可能であるかどうかを表す。

「R」と示された項目は、繰り返し設定することが可能である。()内は最大繰り返し可能回数を示す。「N」と示された項目は、1レコード中に1つしか存在できない。また、「図書館書誌データ」の「出版物理単位」等、複数項目にわたって「R」と示されている場合、当該項目は対になって繰り返す。

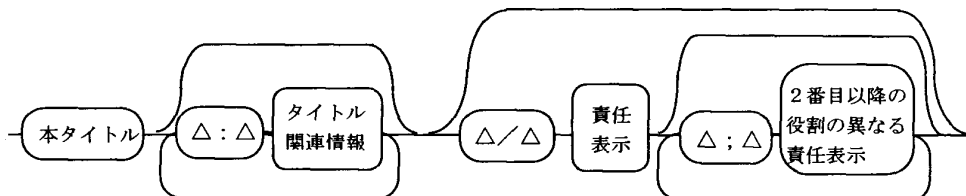
記述文法の見方は以下の要領による。



- (1) A,B,C 及び D は、データ要素又は ISBD の区切り記号等を示す
 - (2) 記述は、左から右に、ABC の順に行く
 - (3) A 及び C は、必ず記述する
 - (4) B は、記述しないことも可能である
 - (5) A 及び C は、複数回繰り返しての記述が可能である
 - (6) C を繰り返す場合は、C と C の間に D を記述する必要がある
 - (7) スペースを明示するために、「△」という記号を使用する
- ④本書では、スペースを△で表す

タイトルと責任表示に関する事項の例

(2 番目以降の役割の異なる責任表示がある場合)



⑤NCR87 の第 2 水準では、同一役割で 2 (人) までの表示など、この文法とは記録方法が若干異なる。詳細についてはそれぞれの箇所の説明する。

国立情報学研究所ホームページ「目録システムコーディングマニュアル⁴⁾⁰⁾」より